

愛媛大学SDGs活動報告書

愛媛大学SDGs推進室

SDG活動報告書の発行について

愛媛大学では、これまで様々な教育・研究・社会貢献・国際貢献活動をしてきました。その中には、SDGs活動や、それにつながるものが数多く含まれています。各構成員が、それぞれにSDGs活動を実施するとともに、より大きな力を発揮するために、大学組織として、SDGsを推進することが重要です。そこで、多くの方にSDGsの内容を理解してもらい、学内外の様々な人々と協働しながら、SDGs活動を推進していくべきと考えています。

その第一歩として、SDGs活動報告書を作成することとしました。本報告書は、SDGsとは何かを説明するとともに、主にSDGs推進室の教員等の活動実績と、関連するSDGsの17のGOALについて紹介しています。

愛媛大学SDGs推進室長 西村 勝志



SDGsとは？

「SDGs（エスディー・ジーズ）」とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、MDGs（エムディー・ジーズ）の後継として2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、国際社会共通の目標です。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会を実現するために、世界各国193か国が合意した17の目標と169のターゲット、そして232の指標です。

前身のMDGsとは、2001年にまとめられた2015年までの国際目標であり、1990年代に開催された主要な国際会議・サミットで採択された国際開発目標と、2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言とを統合して作られた8つの目標です。これらは、開発途上国を中心とする問題を背景としていました。

これらのうち、2015年までに十分には解決できなかった貧困や飢餓の問題・ジェンダー問題・教育や健康の問題のみならず、その間に新たに発生してきた環境問題・社会問題・経済問題をバランスよく統合して解決するために、SDGsは誕生しました。



愛媛大学におけるSDGs推進活動とは？

持続可能な社会づくりに向けてSDGsを達成するためには、地球規模で考えて解決すべき諸問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むこと（Think Globally, Act Locally）が必要となります。大学構成員の熱い思いが人々を動かし、一人ひとり努力することがより良い社会を創り上げることにつながります。そのため、愛媛大学でなければならないことはなにかを考えながら、地域ステークホルダーとの協働行為により、より大きな成果を求めて邁進していきます。

愛媛大学は、持続可能な社会の実現に向けて、新たな知を求め、必要とされる人材を育成し、地域や国際の枠を超えて様々なステークホルダーと協働し、現代社会が抱える複雑な諸問題を「自分事として考え」「誰一人取り残さず」「将来にツケを回さない」ように解決へと導くために、SDGsの達成を目指します。そのために、2019年10月にSDGs推進室を設置し、愛媛大学におけるSDGs活動を、全学的視点から地域や世界に向けて推進しています。



愛媛大学SDGsシンポジウムの様子

SDGsの17の目標 具体的な内容とは？



安全な水とトイレを世界中に

すべての人々に水の利用と衛生を確保し、持続可能な管理を確保することで、安全で安心な水が手に入るようにし、汚い環境で生活しないで済むようにすることです。ゴミの適切な処理が実施できなければ、水質汚染など生活環境を不衛生な状態にします。



つくる責任つかう責任

持続可能な消費と生産のバランスを確保し、廃棄物（危険物を含む）処理を適正に行い、廃棄物の量を測定することです。とくに、プラスチックなど使捨て品の使用を可能な限り抑制することです。便利さを求めるあまり、このままでは、地球の資源が枯渇するだけでなく、ゴミが増え続けてその処理ができなくなります。



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に安価で信頼できる、持続可能なエネルギーへのアクセスを確保することです。地球温暖化をもたらす温室効果ガス（CO₂など）を発生させないよう、環境にやさしい再生可能エネルギー（太陽光・風力・水力などの発電エネルギー）を安く、いつでも使えるようにすることが大切です。



気候変動に具体的な対策を

気候変動によって世界で起こる自然災害からの影響を軽減するために、具体的な対策を講じることです。まずは日常で、無駄なゴミを出さないことが大切です。無駄なゴミを焼却すると、CO₂が生じ、地球温暖化の原因となります。



働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全で生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を推進することです。働き方改革を推進し、児童労働や職場ハラスメントをなくし、働き甲斐を高め、生産性を向上させることが大切です。



海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用するとともに、海洋汚染を防止すること、また削減することです。我々は、海とそこで暮らす様々な生物から恩恵を受けています。海の生物多様性に悪影響を及ぼさないようにしましょう。



産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図ることです。災害時に復旧しやすい設備を整え、被雇用者も十分な収入が得られるような産業を創ろうとすることが大切です。



陸の豊かさを守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および回復、ならびに陸の生物多様性に悪影響を及ぼさないようにすることです。我々は、森や山などの自然とそこで暮らす様々な生物から恩恵を受けていることを忘れてはなりません。



人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の不平等を是正することです。不平等は、年齢や性別、障がいの有無、人種の違いなどによって起こることがあり、様々な差別、働く機会の不平等、不公平な商品売買取引などがあげられます。人々が平等に能力を強化し、経済格差を是正することが大切です。



平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築することです。世界が平和であるためには、世界各国での暴力をなくすとともに、子供への虐待・搾取を撲滅することが大切です。



住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現することです。これは、すべての人々が安全で、心地よく暮らせるまちづくりのことです。



パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化することです。これは、一人では解決できないことも、仲間とともに自分事として関わり、解決していかうということです。



貧困をなくそう

貧困に陥っている人々をなくし、金銭的にも精神的にも辛い思いをして生活している人を救うことです。貧困とは、貧しくて必要な食べ物や飲み物がなく、住み所もままならないことです。病気やケガで働けなかったり、質の高い教育を受けられなかったことなどでも、貧困は生じます。



飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進することです。飢餓とは、満足に食べることができず、栄養が足りなくて痩せ細ることです。貧困や疫病、紛争・戦争以外に、自然災害でも、飢餓は生じます。



すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進することです。病気やケガなどを減らし、生活環境における空気・水・土などが汚染されないようにすることが大切です。また、普段から健康診断の受診と運動の習慣化を心掛けましょう。



質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供するとともに、生涯学習の機会を促進することです。学校など教育環境の保全以外に、教育者の確保も大切です。



ジェンダー平等を実現しよう

男女などの区別なく誰でも、無料かつ公平に質の高い教育を受けられることや、乳幼児教育や初等教育を充実することです。とくに、すべての女性や女の子に男性や男の子と同じような力を与えるために、すべての女性及び女兒の能力強化を行うことでもあります。